



1 現在は仮店舗である物産館内で展示販売されている津山自慢の木芸品 2 敷地内の木製遊具で遊ぶ子どもたち 3 昨年は「秋田ふれあい竿燈(かんとう)」も開催された 4 夏休みに開催される「親子木工教室」には毎年大勢の親子が参加 5 ワサビなど地元の新鮮な農林産物が購入できる産直コーナー 6 今年3月に新型コロナの影響により一般公演が中止となった市民劇場「夢フェスタ水の里」。劇のシンボルともいえる「イナイリュウ」の想像模型を物産館内に常設展示

第2章

存在1

私たちにとっての「もくもく」

年間を通じて多くの人が訪れるもくもくランド。それぞれの人たちにとって、「もくもく」とはどのような場所なのでしょう。

地域の特長を集めた場所であり地域活性化の拠点



津山地域振興会 堀田 耕平 会長

さまざまな人とのふれあいの場

津山地域振興会は津山公民館を地域づくりの拠点として活動しています。もくもくランドの存在はこれまでも、そしてこれからも津山地域の活性化を図るための施設であることは間違いありません。

もくもくランドは、柳津地区と横山地区の中間に位置し、イベント広場や広い駐車場もあるので、地域のイベントにもよく利用されています。津山の人も、また道の駅に立ち寄る人と津山の人のふれあいの場にもなっています。

木工芸品が有名なもくもくランドですが、産直センターには津山の農林産物が出荷され、それが農家の生

きがいにもつながっています。にぎわいの拠点であり、経済活動の場、地域の雇用の場、そして登米市をPRする場など、地域活性化の大きな役割を担っています。

地域の宝物・PR窓口にも期待

現在、振興会では津山の観光マップづくりに取り組んでいます。津山の良い所、宝物を紹介し、地域の人ももちろん、市内外の多くの人たちに来てもらい、地域活性化の一助にしたいという願いがあります。

その中で、もくもくランドには津山地域の観光地の中心であるとともに、その集客力を生かして地域全体のPR窓口の役割も担ってほしいと考えています。

今は三陸道の延伸で交通量が減り厳しい状況が続いていますが、地域みんなでもくもくランドを盛り上げていきたいですね。なんといっても、もくもくランドは地域の特長を集めた施設。地域住民にとっては、誇りある場所です。

もくもく製品を長く愛用



大崎市三本木 佐々木 勇士 さん

10年ほど前から、もくもくハウスで椅子や小物を購入し、愛用しています。私の理想とするぬくもりがこの製品にはあります。手が掛かっていて品質が良い割には、値段もお手頃だと思います。

買い物とくつろぎの空間



津山町横山5区 佐々木 美佐子 さん

産直には週1回程度、野菜やお弁当を買いに来ています。スーパーやコンビニが近くにないので助かりますね。木里口ではコーヒーを飲みながら友達とおしゃべり。くつろげる場所にもなっています。

にぎわう収穫祭が楽しみ



津山町横山9区 尾張 あき子 さん

子どもや孫が小さいときは遊具で遊ばせるために来ていました。毎年秋には収穫祭が開催されます。野菜販売はもちろん、チャリティーバザーや餅つき大会などでにぎわうので毎年楽しみにしています。

作品を発表する大切な場



中町新小路 岩淵 高雄 さん

市内の豊富な木の資源を活用したくて木工品の製作を始めました。3年ほど前から「もくもく」に商品を置いており、私の大切な発表の場です。これからも良い作品を提供していきたいですね。

世間話から産直で販売に



津山町横山7区 遠藤 真美 さん

結婚後津山に住み、産直で買い物をするうちに、店員さんと世間話をする仲になりました。生産者を募っていることを知って、うちで作っているスプレー菊を出荷することになり、販路拡大につながりました。

親子木工教室に会話弾む



追町大浦 杵淵 和枝 さん 萌 さん

夏休みに「もくもく親子木工教室」が開催されていると知り、昨年、おとしと参加。夏休みの工作の宿題にいいので、気付くと子どもも夢中になって作っています。親子の会話も弾みますよ。

道の駅「津山」もくもくランド

木工芸品を展示・販売する「クラフトショップ・もくもくハウス」や地元の新鮮な農林産物が買える「産直ときめき野菜」、「食事処・木里口」があり、屋外には大型木製遊具がある農村公園やイベント広場があります。また、24時間利用できるトイレと約130台駐車可能な駐車場があり、情報センター設備も備えています。

☎0225(69)2341

※もくもくハウスと木里口は 昨年の台風で被災したため、隣の物産館内で仮営業中



もくもくランドホームページ